

みちがみ はく 道上 伯(1912~2002)



柔道師範。西宇和郡矢野崎村(現、八幡浜市)出身。大正15(1926)年、愛媛県立八幡浜商業学校(現、県立八幡浜高等学校)入学を機に柔道を始める。同年、初段審査に合格したが、14歳という当時としては異例の若さでの合格だったためこの時点での昇段は見送られ、15歳の誕生日を迎えた時に改めて正式に初段を与えられている。昭和9(1934)年、日本唯一の武道専門家養成校であった大日本武道専門学校に入学し、翌年、2年生にして柔道部主将となる。昭和13(1938)年、武道専門学校を卒業、助教授として高知高等学校(現、高知大学)へ赴任。この頃、四国四県対抗大会や熱田神宮での奉祝大会、檀原神宮奉納全国武道大会で活躍した。昭和15(1940)年、上海の東亜同文書院大学へ予科柔道教授兼同大学講師として招聘されるが、昭和20(1945)年、太平洋戦争の激化により帰国、戦後は東亜同文書院大学の閉校に伴って失職することとなった。昭和28(1953)年、フランス柔道連盟の要請を受けて渡仏、以来、ヨーロッパ・アフリカ・アメリカなど54の国と地域の最高技術顧問として柔道の指導にあたり、生涯にわたり海外に武士道精神を伝えた。

柔道の試合においては生涯無敗を誇り、学生時代のみならず、指導者として海外で臨んだ様々な試合においても一度も敗戦していない。指導者としては、アントン・ヘーシンクを育てた事で知られている。昭和30(1955)年にオランダを訪れた際、20歳のヘーシンクの才能を見出し、柔道の技術だけでなく、筋力トレーニングをはじめとする先鋭的な体力作りの手法を教授。その結果ヘーシンクは、昭和36(1961)年の世界選手権無差別級に優勝し、昭和39(1964)年の東京オリンピック柔道無差別級でも金メダルを獲得、日本柔道界に計り知れない衝撃をもたらした。

略歴

大正元(1912)年10月21日	西宇和郡矢野崎村に生まれる。
大正15(1926)年	初段審査合格(授与は翌年)
昭和9(1934)年4月	大日本武道専門学校に入学
昭和13(1938)年3月	大日本武道専門学校を卒業
4月	助教授として高知高等学校へ赴任
昭和15(1940)年5月	東亜同文書院大学へ予科柔道教授兼同大学講師として招聘される。
昭和20(1945)年8月	太平洋戦争の激化により帰国。故郷へもどる。
昭和28(1953)年	フランス柔道連盟の要請を受けて渡仏(無報酬、1年の約束だったが継続を求められ、フランスに定住)。道上道場をボルドーに発足。
昭和29(1954)年	チェニジア、アルジェリア、モロッコの柔道最高技術顧問となる。
昭和30(1955)年	オランダ柔道協会の最高技術顧問となる(昭和43年まで13年間)。
昭和31(1956)年	フランス有段者(初段以上)の最高技術顧問となる。
昭和33(1958)年	ボルドーにおいて国際柔道講習会をスタート。40年間続く。
昭和36(1961)年	第3回柔道世界選手権(パリ)で、指導したアントン・ヘーシンクが優勝
昭和39(1964)年10月	第18回オリンピック・東京大会で、指導したアントン・ヘーシンクが金メダル獲得
昭和46(1971)年9月	永久昇段審議委員にフランス政府より任命される。
昭和59(1984)年	道上柔道アカデミー設立。
平成14(2002)年8月4日	一時帰国中に心不全により89歳で永眠。

(写真提供：道上雄峰氏)

〈関連図書〉

・眞神博著『ヘーシンクを育てた男』文藝春秋 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P235~236, 184~185)

〈ゆかりのある場所〉…(P320, 226)